

宜野湾高校の生徒達へ（70）

2021.1.7

明けまして、おめでとうございます。今回は、3学期始業式で話した内容とそれ以外に紹介したい映画を取り上げます。まずは映画の紹介から。「GOGO 94歳の小学生」。これが映画のタイトルで、次のキャッチコピーが目を引いた。

ケニア在住の94歳、通称“ゴゴ(おばあちゃん)”。子ども3人、孫22人、ひ孫52人、助産師歴75年。彼女が挑戦するのは小学校の卒業試験。誰もが勇気をもらえる感動のドキュメンタリー。

まず、疑問なのが、94歳で小学生？ 人生も最晩年なのに、なぜ小学校に通おうと思ったのか？ 以下、「GOGO 94歳の小学生」の公式サイトから一部引用。

プリシラ・ステナイさんは、ある時、学齢期のひ孫娘たちが学校に通っていないことに気づいた。自ら幼少期に勉強を許されなかったこともあり、教育の大切さを痛感していたゴゴは一念発起。自ら聖書や憲法を読むため、小学校に入学することを決意。当初は高年齢すぎるため入学を拒まれるも、「自分が見本となることで、娘を学校に行かせない他の親たちを説得できるだろう」と、粘り強く校長に交渉し許可を得る。6人のひ孫娘たちと共に小学校に入学し、年下のクラスメートたちと同じように寄宿舎で寝起きし、制服を着て授業を受ける。



すっかり耳は遠くなり、目の具合も悪いため勉強するのは一苦労…。それでも、助産師として自分が取り上げた教師やクラスメートたちに応援されながら勉強を続け、ついに念願の卒業試験に挑む！ 彼女の寄宿舎のドアには「学ぶことに年齢は関係ない」という看板が掲げられている。

ステナイさんの「学ぶことに年齢は関係ない」の言葉から、私は本校通信制で学ぶ生徒たちの姿が頭に浮かんだ。『宜野湾高校の生徒達へ(65)』で通信制生徒の作文を紹介したが、私が全日制の皆さんにぜひ意識してほしいのが次の箇所だ。

本校には校門を入るとすぐに校訓の石碑があります。そこには「自主・誠実・創造」と刻まれています。高校に入学した頃、この校訓は私には手の届かない高い理想でした。登校の度にこれを見ることで勇気づけられました。卒業しようとする今、自分自身で立つ力、誠実に生きようとする力が少しずつ、ついてきたように思います。そして、自分の未来を創造していこうと前を向いています。この校訓を胸に刻んで歩んでいきたいのです。私の未来は私の手の中にあるのですから。

この生徒は、本校の校訓「自主・誠実・創造」について、本校の誰よりも深く理解し、その達成に向け、日々、意識し行動している。まだ、読んでない生徒はぜひ、目を通してほしい。全日制の生徒も、朝の登校時に校訓の石碑を見て、一日を充実して過ごす決意をしてもらいたい。

欲を言えば、朝、流れる校歌にも校訓「自主・誠実・創造」の精神が歌詞に込められているので、最初は周りの人から変な人だと思われるかもしれないが、校歌を口ずさみながら、一日の始まりの心構えをしてほしい。これを多くの宜野湾高校生ができれば、宜野湾高校は確実に一人一人の生徒が生き生きとし、中学校から憧れの高校になる（と思う）。

私がこのような事を考えるのも、皆さんの2学期の勤怠や成績の状況が昨年に比べ、良くなっているからだ。例を挙げると、皆出席者数が昨年より50名増加し、成績優秀者は倍増。一方、指導を要する生徒数は半減。このような状況を見ると、宜野湾高校生が校訓を意識して毎日を過ごすことにより、もっと伸びていくのではないかと思うのだ。

3年生は登校するのも1ヶ月余り。G1の3年生として、1・2年生にしっかりとバトンをつないでもらいたい。今年**は**丑年。G1生諸君、モ一少し、前を向いて頑張ってみようか。

沖縄県立宜野湾高等学校長 津留一郎

